



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

4. 展着剤を加用したペンコゼブフロアブルのキュウリ果実汚れ軽減効果

[要約]

キュウリ褐斑病菌防除に有効なペンコゼブフロアブルを散布すると果実汚れが生じるが、展着剤を加用すると高い防除効果を維持したまま、汚れが軽減できる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

県内のキュウリ主要産地に発生している多剤耐性キュウリ褐斑病菌（以下多剤耐性菌）に対して高い防除効果を有しているペンコゼブフロアブル（一般名：マンゼブ水和剤）は、キュウリの収穫期に散布すると果実に汚れが生じるため、使用が避けられてきた。そこで、果実汚れを軽減する技術として、ペンコゼブフロアブルへの展着剤加用の果実汚れ軽減効果と、褐斑病の防除効果へ及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. ペンコゼブフロアブルに、展着剤のアビオンE (500 倍)、アプローチB I (1,000 倍)、スカッシュ (1,000 倍)、ハイテンパワー (5,000 倍)、ブレイクスルー (5,000 倍)、マイリノー (5,000 倍)、まくぴか (3,000 倍) 又はミックスパワー (3,000 倍) を加用すると、キュウリ果実の汚れが軽減できる(図1、2)。特に、スカッシュの果実汚れ軽減効果が高い。
2. ブルームレス台木の接ぎ木苗を用いたポット試験において、上記の展着剤を加用したペンコゼブフロアブルのキュウリ褐斑病に対する防除効果は、非加用のペンコゼブフロアブルと同様に高い(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 出荷可能な汚れ程度は各選果場により異なるため、事前の確認が必要である。
2. キュウリに登録のあるマンゼブ水和剤として、ペンコゼブフロアブル（有効成分濃度 28%）の他、ジマンダイセン水和剤（有効成分濃度 80%）、ペンコゼブ水和剤（有効成分濃度 80%）がある。ジマンダイセン水和剤においても展着剤の加用による果実汚れ軽減効果は認められるが、ペンコゼブフロアブルの場合より汚れ発生率は高い。
3. 果実へのマンゼブ水和剤による汚れは、気象や散布量が影響するため、図2の数値は目安とする。
4. 本試験に使用したペンコゼブフロアブルは、多剤耐性菌発生圃場においてもジマンダイセン水和剤と同様の高い防除効果がある。



[具体的データ]

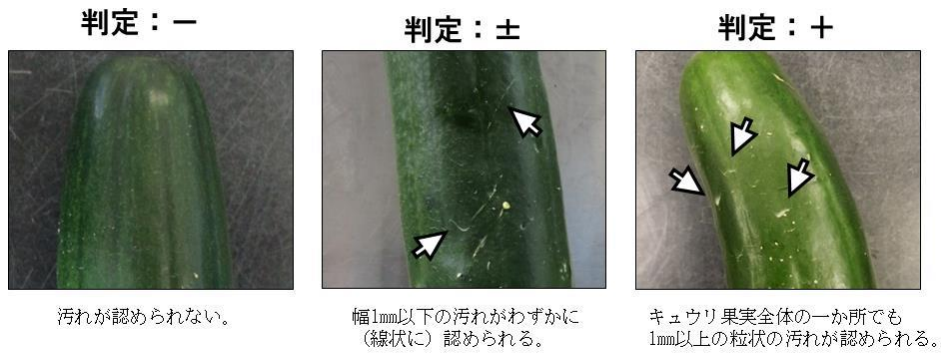


図1 キュウリ果実での汚れ程度の判定基準
各地域の普及指導センター、各JA及びキュウリ産地(建部、久米南)
の選果場からの聞き取り調査により、汚れの判定基準を設けた

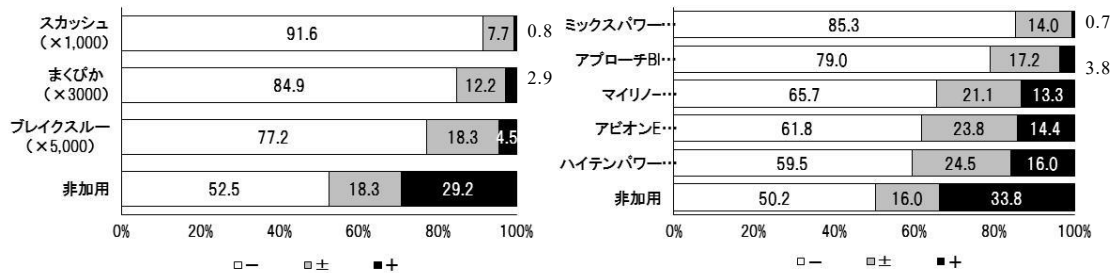


図2 展着剤を加用したペンコゼブフロアブルのキュウリ果実汚れに対する軽減効果
薬剤を散布し、翌日の同時刻に収穫したキュウリ果実の汚れを、図1の基準に従って判定した
各試験は3試験繰り返し、それぞれの割合は、3試験の平均を示す
非加用はペンコゼブフロアブルのみを示し、それ以外は加用した展着剤を記載した
a) 薬剤散布日：平成29年7月6日、13日、19日
b) 薬剤散布日：平成29年8月14日、22日、30日



図3 展着剤を加用したペンコゼブフロアブルのキュウリ褐斑病に対する防除効果(ポット試験)
3～4葉齢のキュウリ苗に薬剤を散布後、 1×10^4 個/ml に調製したキュウリ褐斑病菌を噴霧接種し、接種後1
又は2週間後の葉あたり病斑数を計測した。非加用はペンコゼブフロアブルのみ、無散布は薬剤の代わりに水
を散布した。各試験は3試験繰り返し、葉あたり病斑数は3試験の平均を示す
品種：ビュースター (台木：NEW スーパー雲竜)、接種した褐斑病菌：アミスター20 フロアブル、カンタスト
ライフロアブルに高度耐性、ゲッター水和剤に中度耐性菌

[その他]

研究課題名：キュウリ褐斑病の多発要因の解明による総合防除技術の開発

予算区分：交付金

研究期間：2015～2017年度

研究担当者：矢尾幸世、桐野菜美子、苧坂大樹、畔柳泰典

関連情報等：1) [平成29年度試験研究主要成果、29-30](#)

2) 平成30年度日本植物病理学会大会(講要)